

平成21年度海外派遣教員壮行会

平成21年2月28日（土） 岡山アークホテルで4月から派遣される先生方の壮行会を開きました。



まず、山本正会長のあいさつです。

「先生方が今、期待と不安が交錯し、その中でも、不安の方が大きいのは、私たちもそうでした。しかし、それは運命であって結果は後から分かります。任国で皆さん方を期待して待っている子ども達のためにも、しっかりがんばって下さい。」



神田進校長は、津山市立二宮幼稚園からイーストテネシー補習授業校に派遣されます。これが2回目の派遣です。たくさんのお仕事をされていた関係で、その引き継ぎに、深夜までかかることが多かったそうです。イーストテネシーは、人口が3万人足らずの田舎町で、馬で通勤したらと言われるような所だそうです。100人の子ども達が待っているので、学校経営の責任の重大さを感じると、張り切っておられました。



斎藤輝三校長は、ワシントン補習授業校に派遣されます。これが、3回目の派遣です。ワシントンには補習校が3校もあって、校長も3人いるそうです。前任者が1年で帰国したということもあり、保護者の要望をしっかり聞き、500人の子ども達のために、そしてこの派遣を支えてくれた岡山県やたくさんの人たちのためにも頑張って任期を全うしたと、決意を述べられました。



津嶋邦彦教頭は、岡山市立操山中学校からサンパウロ日本人学校に、派遣されます。治安は若干不安ではありますが、現地の人たちと積極的に交流し、ブラジルの文化にふれたいということでした。また英語が専門ですが、現地には中学校3年生で、すでに英検2級を取得する生徒が多数いると聞いて、感心し興味もわいているとお話されました。



木村和俊教頭は、玉野市立鉾立小学校から、天津日本人学校に派遣されます。ふと目にとまった日本人学校の教頭が足りないというFAXで、運命が決まったそうです。激変する中国を、間近で見られることに感謝しているそうです。日本で有名な天津甘栗は、日本製で天津飯も現地にはないそうなので、実際の中華もお楽しみにして下さい。

岡田正和先生は、岡山市福浜中学校から、ジョホール日本人学校に派遣されます。3年間の任期を、周りの人たちと協力して、全力でがんばってきたいと、張り切っておられました。マレーシアという異国のことを色々、現地で学びたいと期待に胸を膨らませておられました。



今本洋介先生は、赤磐市立吉井中学校から、大連日本人学校に派遣されます。岡山からは直行便で2時間の近さです。岡山から派遣されていた、岡山市立幡多小学校の小島鋭之先生が3年前に担任した中学校3年生になる生徒を、教えることになったそうで、同じテーブルで小島先生と熱心にお話されていました。まさに小学校との協同ですね。



増田健二郎先生は、倉敷市立南中学校から、香港日本人学校に派遣されます。周囲の人に、派遣おめでとうと言われる度に、その期待に応えたいという気持ちでいっぱいになるそうです。中学校1年生の担任で、専門の理科以外に、技術も教えることになるそうです。



三宅孝明先生は、倉敷市立葦高小学校からミラノ日本人学校に派遣されます。奥さんが、この壮行会の日にも出産という大変な時期に、派遣となるわけで、秋に家族を呼び寄せるまでには、しっかりとした生活の基盤を築き、安心して暮らせるようにしたいとお話しされました。また、この冬はインフルエンザにもかかり、健康の大切さを痛感したそうです。



長木愛先生は、岡山市立上道中学校から、台北日本人学校に派遣されます。英語が専門で、オーストラリアに留学した時日本人学校のことを、初めて知ったそうです。台北には、国際家庭が多いので、帰国の時には、家族が増えたらいいなと、将来の家庭もえがいてお話しされました。



宗定雅之先生は、岡山市立開成中学校からプラハ日本人学校に、派遣されます。現地での通勤手段を校長に尋ねると走ってきなさいと言われたそうです。実際校長は、7 kmの距離を走っているそうです。そして、マラソンにも挑戦しているとか体調管理のためにも、見習わないといけなかなあと、お話しされました。



岡浩史先生は、岡山市立西大寺中学校からシラチャ日本人学校に派遣されます。すでに中学部長・教務などの仕事が決まり、新しいバンコクから車で2時間ほどの距離にある学校の立ち上げに関わっていくということでした。児童生徒数は、約100人だそうです。



今回は、来賓として全海研の滝多賀雄副会長にお越しいただきました。今回、岡山から初めてシニア派遣の先生がいましたが、そのお話を中心にされました。今年が3回目の派遣で、7人・10人・21人と増えているそうです。しかし、倍率は1.5倍と現役よりも、合格が難しいそうです。退職して体調面で心配な年齢になっても、そんな不安を吹っ飛ばしてまたやろうという心意気に驚かされることが多いそうです。岡山県のシニア派遣の道を開いてくれた、神田校長・斎藤校長有り難うございます。



また、全海研は、全国の情報が集まってくるので、この広がった大きなネットワークを生かして、良い方向に日本の教育をもっていって下さいと締めくくられました。

参与の武泰念矢掛町教育委員会教育長が、来年度の中国地区国際理解教育研究会を、平成22年1月22日に開催することになったので、ぜひ本会を通じて、300人は出席してもらえようと、お話されました。そして、派遣者には帰国後もぜひこのような会に、積極的に参加し力を発揮してほしいと激励されました。最後に、都築勉副会長が、閉会のあいさつとして、それぞれの任地で、たとえ衛生状態や治安面の不安があろうとも、仲間と共に、子ども達のために、日本の教育をしっかりとしてほしいこと。また、多様な経験を生かすためにも、この壮行会を始めるの一步にしてほしいと述べられました。

